

2024 年度後期
「授業改善のための学生アンケート」 結果報告書

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

目 次

1. 2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	3
2. 2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	4
② 大学院	9
3. 2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② FD・SD 推進委員会からのメッセージ	15
4. 2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	16
② 顕彰授業における工夫	17

1. 2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実 施 期 間：2025 年 1 月 6 日（月）～1 月 23 日（木）

実 施 対 象：人間総合学部専門科目、宗教学科目、共通科目、学部共通科目、
司書課程科目、司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目
※対象外科目でも教員の希望により実施可

調 査 方 式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 10 分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 (大学院科目対象外) あなたは授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
Ⅰ. 週2時間以上 Ⅱ. 週1~2時間 Ⅲ. 週30分~1時間 Ⅳ. 週0分~30分 Ⅴ. 全くしていない
- Q2 この授業の進度は適切でしたか。
Ⅰ. 速すぎる Ⅱ. やや速い Ⅲ. ちょうどよい Ⅳ. やや遅い Ⅴ. 遅すぎる
- Q3 この授業の難易度は適切でしたか。
Ⅰ. 難しすぎる Ⅱ. やや難しい Ⅲ. ちょうどよい Ⅳ. やや易しい Ⅴ. 易しすぎる
- Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。
Ⅰ. 多すぎる Ⅱ. やや多い Ⅲ. ちょうどよい Ⅳ. やや少ない Ⅴ. 少なすぎる
- Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない

- Q12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q17 この授業を履修したことに満足している。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q18 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。（自由記述）
- Q19 この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。（自由記述）
- Q20 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。（自由記述）
- Q21 （教員より指示があった場合のみ回答） ※教員個別設定質問 （自由記述）
- Q22 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q23 （Q22 で「いいえ」と答えた人のみ回答） 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。（自由記述）

⑤ 実施科目数

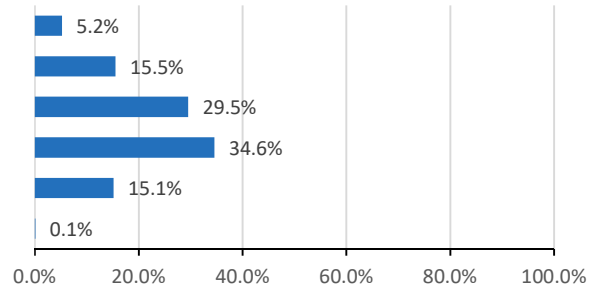
251 科目（学部：233、大学院：18）

2. 2024年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

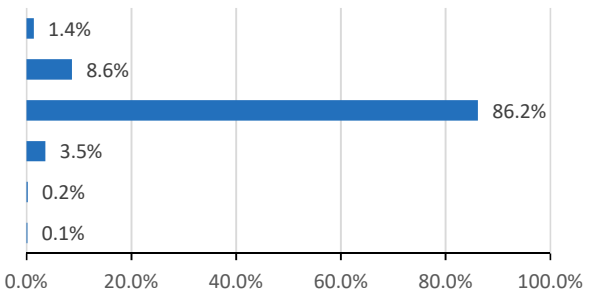
Q 1 （大学院科目対象外） 授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	133	5.2%
2	週1～2時間	398	15.5%
3	週30分～1時間	757	29.5%
4	週0分～30分	887	34.6%
5	全くしていない	388	15.1%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,565	



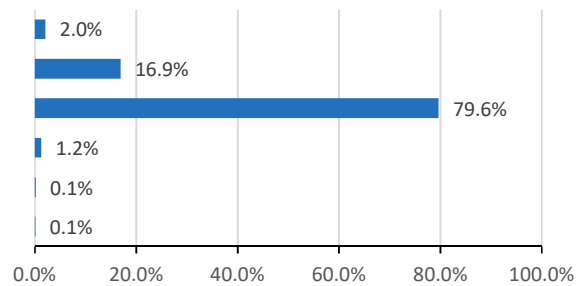
Q 2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	35	1.4%
2	やや速い	221	8.6%
3	ちょうどよい	2,210	86.2%
4	やや遅い	91	3.5%
5	遅すぎる	5	0.2%
6	非該当	3	0.1%
	合計	2,565	



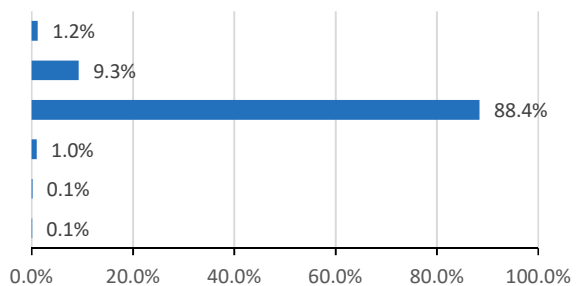
Q 3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	52	2.0%
2	やや難しい	433	16.9%
3	ちょうどよい	2,043	79.6%
4	やや易しい	32	1.2%
5	易しすぎる	3	0.1%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,565	



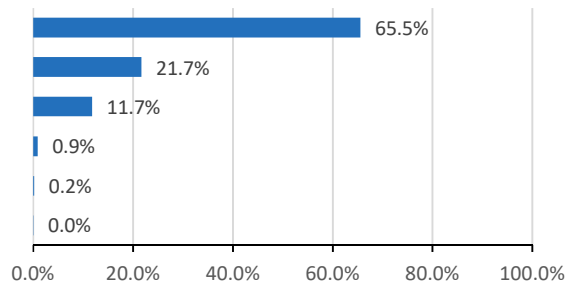
Q 4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	30	1.2%
2	やや多い	238	9.3%
3	ちょうどよい	2,267	88.4%
4	やや少ない	25	1.0%
5	少なすぎる	3	0.1%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,565	



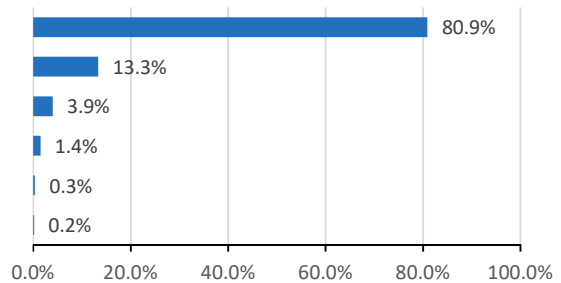
Q 5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,681	65.5%
2	どちらかと言えばあてはまる	556	21.7%
3	どちらとも言えない	301	11.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	22	0.9%
5	あてはまらない	4	0.2%
6	非該当	1	0.0%
	合計	2,565	



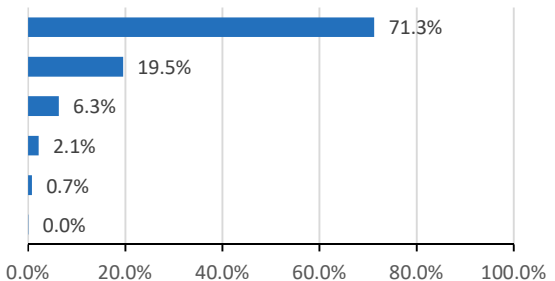
Q 6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,074	80.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	341	13.3%
3	どちらとも言えない	101	3.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	37	1.4%
5	あてはまらない	8	0.3%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,565	



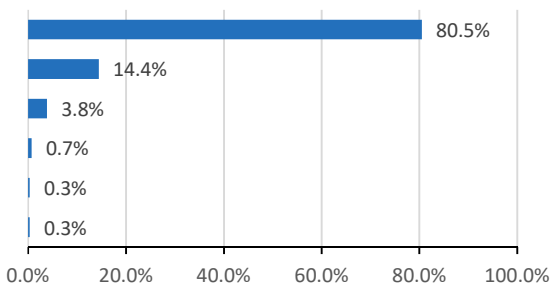
Q 7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,828	71.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	501	19.5%
3	どちらとも言えない	162	6.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	54	2.1%
5	あてはまらない	19	0.7%
6	非該当	1	0.0%
	合計	2,565	



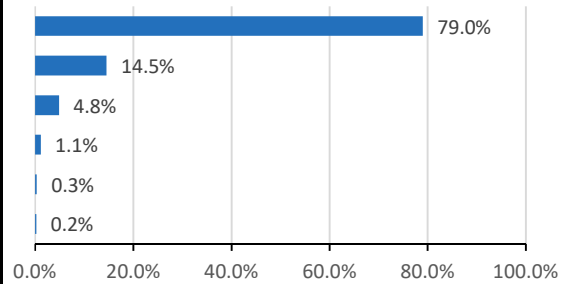
Q 8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,064	80.5%
2	どちらかと言えばあてはまる	370	14.4%
3	どちらとも言えない	98	3.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	17	0.7%
5	あてはまらない	8	0.3%
6	非該当	8	0.3%
	合計	2,565	



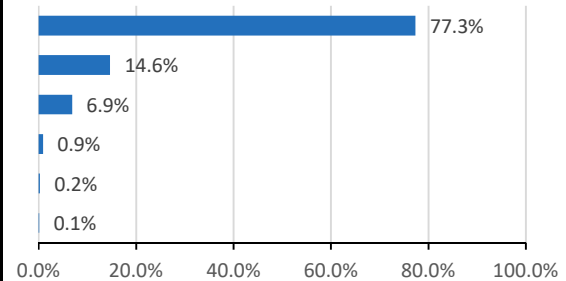
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,026	79.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	373	14.5%
3	どちらとも言えない	124	4.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	29	1.1%
5	あてはまらない	8	0.3%
6	非該当	5	0.2%
	合計	2,565	



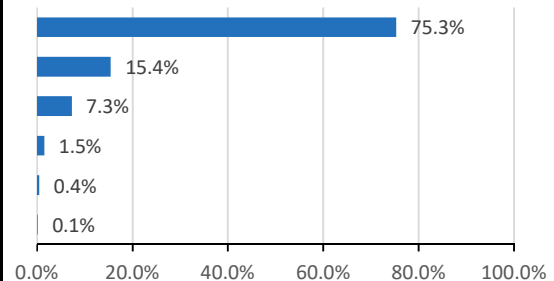
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,984	77.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	375	14.6%
3	どちらとも言えない	176	6.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	22	0.9%
5	あてはまらない	6	0.2%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,565	



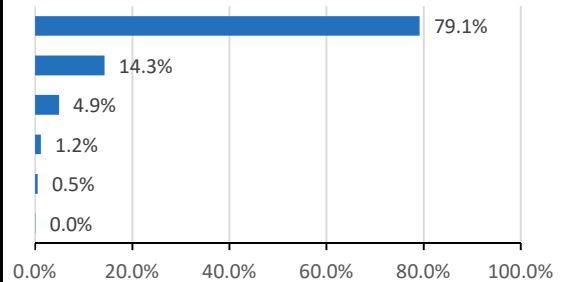
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,932	75.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	395	15.4%
3	どちらとも言えない	186	7.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	38	1.5%
5	あてはまらない	11	0.4%
6	非該当	3	0.1%
	合計	2,565	



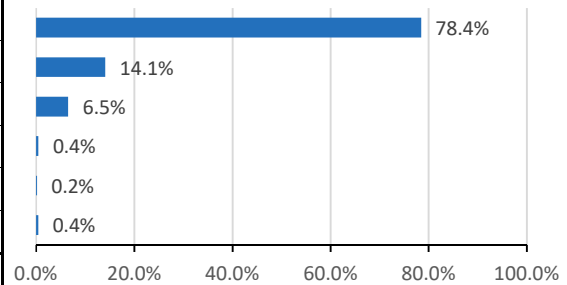
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,030	79.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	366	14.3%
3	どちらとも言えない	125	4.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	30	1.2%
5	あてはまらない	13	0.5%
6	非該当	1	0.0%
	合計	2,565	



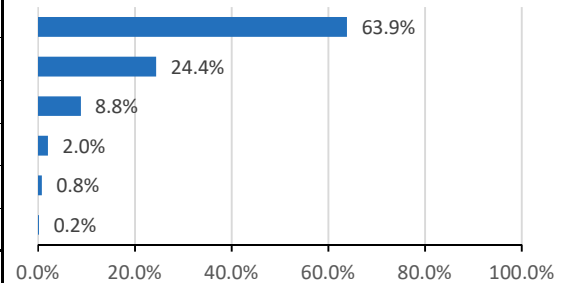
Q 13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,012	78.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	361	14.1%
3	どちらとも言えない	167	6.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	11	0.4%
5	あてはまらない	4	0.2%
6	非該当	10	0.4%
	合計	2,565	



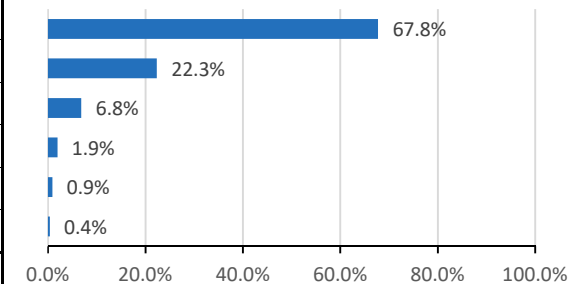
Q 14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,638	63.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	625	24.4%
3	どちらとも言えない	226	8.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	52	2.0%
5	あてはまらない	20	0.8%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,565	



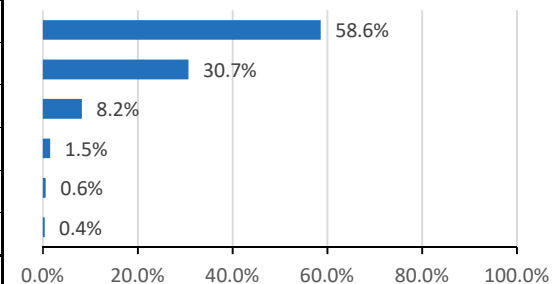
Q 15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,738	67.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	572	22.3%
3	どちらとも言えない	175	6.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	49	1.9%
5	あてはまらない	22	0.9%
6	非該当	9	0.4%
	合計	2,565	



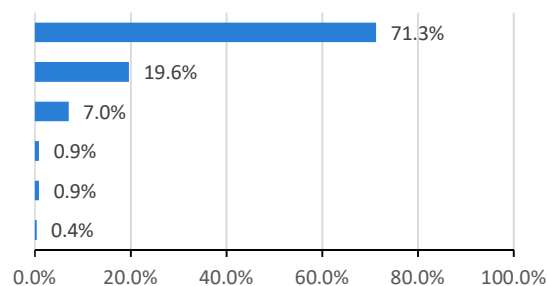
Q 16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,503	58.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	788	30.7%
3	どちらとも言えない	211	8.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	39	1.5%
5	あてはまらない	15	0.6%
6	非該当	9	0.4%
	合計	2,565	



Q 17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,828	71.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	504	19.6%
3	どちらとも言えない	180	7.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	22	0.9%
5	あてはまらない	22	0.9%
6	非該当	9	0.4%
	合計	2,565	



2. 2024年度後期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

②大学院

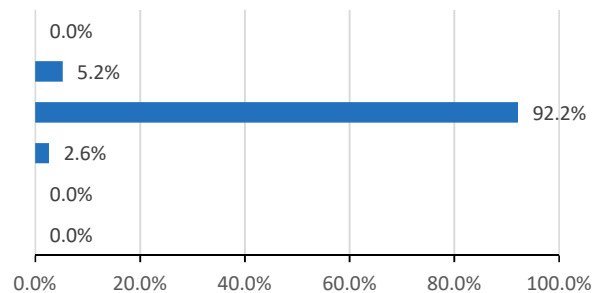
Q 1 （大学院科目対象外） 授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1～2時間	0	
3	週30分～1時間	0	
4	週0分～30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

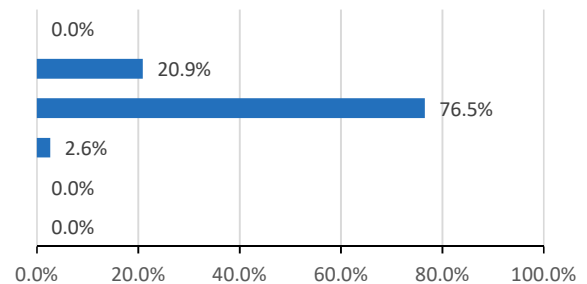
Q 2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	0	0.0%
2	やや速い	6	5.2%
3	ちょうどよい	106	92.2%
4	やや遅い	3	2.6%
5	遅すぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



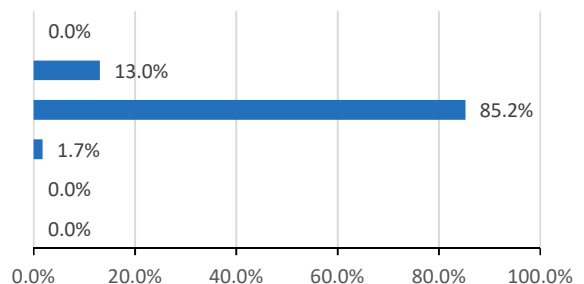
Q 3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	0	0.0%
2	やや難しい	24	20.9%
3	ちょうどよい	88	76.5%
4	やや易しい	3	2.6%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



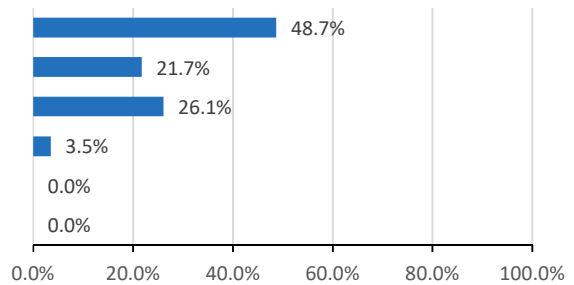
Q 4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	0	0.0%
2	やや多い	15	13.0%
3	ちょうどよい	98	85.2%
4	やや少ない	2	1.7%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



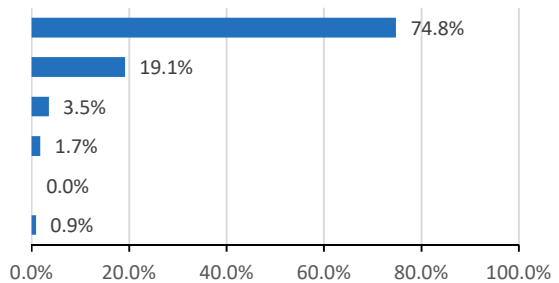
Q 5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	56	48.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	25	21.7%
3	どちらとも言えない	30	26.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	4	3.5%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



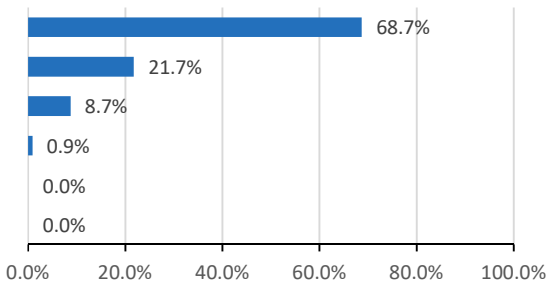
Q 6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	86	74.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	22	19.1%
3	どちらとも言えない	4	3.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	1.7%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	0.9%
	合計	115	



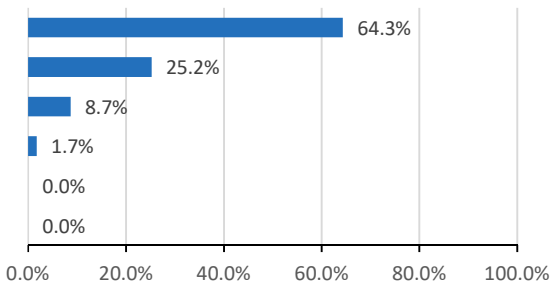
Q 7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	79	68.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	25	21.7%
3	どちらとも言えない	10	8.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	0.9%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



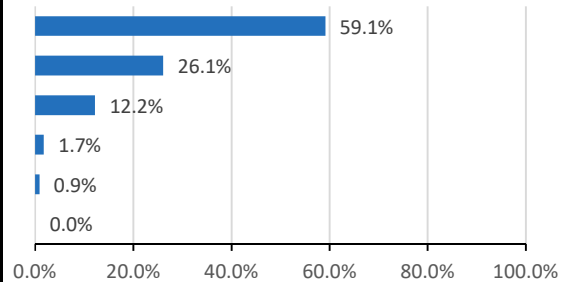
Q 8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	74	64.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	29	25.2%
3	どちらとも言えない	10	8.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	1.7%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



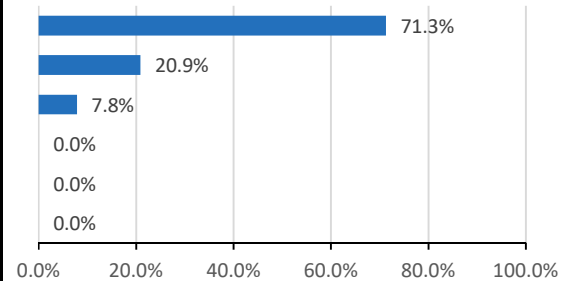
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	68	59.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	30	26.1%
3	どちらとも言えない	14	12.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	1.7%
5	あてはまらない	1	0.9%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



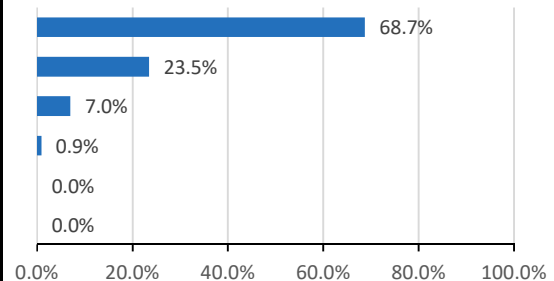
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	82	71.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	24	20.9%
3	どちらとも言えない	9	7.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



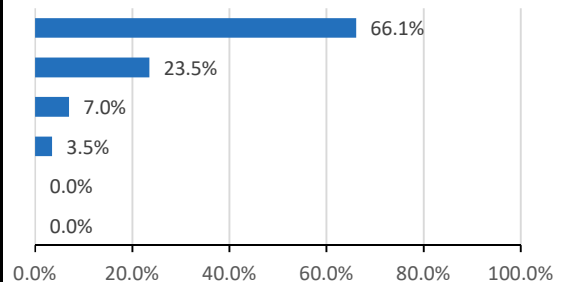
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	79	68.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	27	23.5%
3	どちらとも言えない	8	7.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	0.9%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



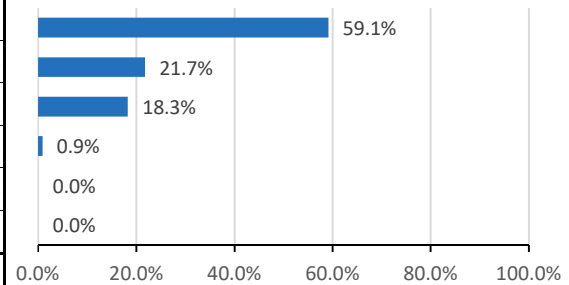
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	76	66.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	27	23.5%
3	どちらとも言えない	8	7.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	4	3.5%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



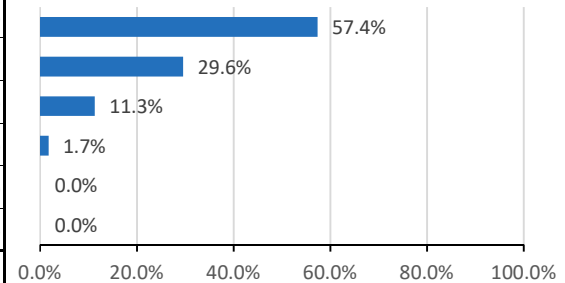
Q 13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	68	59.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	25	21.7%
3	どちらとも言えない	21	18.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	0.9%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



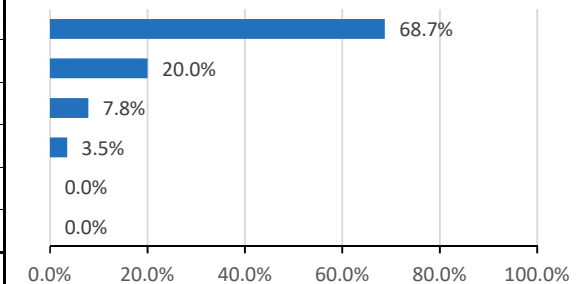
Q 14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	66	57.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	34	29.6%
3	どちらとも言えない	13	11.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	1.7%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



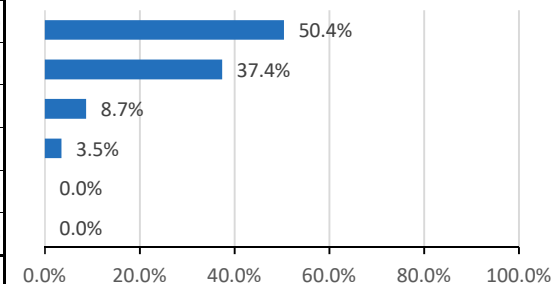
Q 15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	79	68.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	23	20.0%
3	どちらとも言えない	9	7.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	4	3.5%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



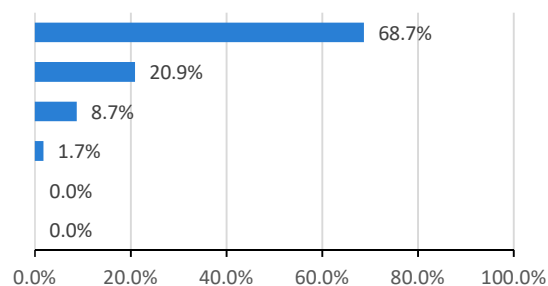
Q 16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	58	50.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	43	37.4%
3	どちらとも言えない	10	8.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	4	3.5%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



Q 17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	79	68.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	24	20.9%
3	どちらとも言えない	10	8.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	2	1.7%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	115	



3. 2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD・SD 推進委員会からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

歴史の中の音楽	金井 玲子	2024/水 1/後期
【Q1】授業以外の学習時間が少ないことについて、授業内で「授業外での主体的な学習」についての声がけを心がけたいと思います。 【Q2】授業の進度について、やや速いが 4 人、ちょうど良いが 24 人、やや遅いが 1 人とのことで、ほぼ進度そのものは変更せず、やや速いと感じる方へのフォローを心がけたいと思います。 【Q5】シラバスのわかりやすさについて、どちらとも言えないとの回答が 4 人いた。次年度のシラバスは既に提出してしまっているので、最初の授業の折に、シラバスについての説明を丁寧に行いたいと思います。 【Q18】生演奏をお楽しみいただけたようで嬉しいです。 【Q19】レジュメと授業内容に一致がみられない部分があるとのことについて、レジュメを見直したいと思います。また、リアクションペーパーの提出期限についても、再検討いたします。		

国際協力論 B	松本 方哉	2024/水 3/後期
【自由記述への総合したお返事です】 ありがとうございます。毎回そうではあるのですが、今回も 10 回目を超えるあたりから、皆さんのリアクションペーパーに「知の輝き」が見え始め、素晴らしいと思いました。ウクライナ問題は本当に難しい状況にあります。講義ノートを手にとり深みを探れば、いまでも必ず真実が見えます。国際協力の精神を思い出して、状況を見続けて下さい。		

言語学各論（接触場面研究）	武田 加奈子	2024/火 2/後期
最後の自由記述欄（授業方法）では回答者の方々はおおむね賛成だったので、来年度も修正しつつ続けていこうと思います。ご協力ありがとうございました。		

② FD・SD 推進委員会からのメッセージ

学生・教職員の皆様、この度は、「授業改善のための学生アンケート」へご協力くださいまして、誠にありがとうございました。

今回のアンケート結果からは、概ね、全ての質問項目において、学生の満足度が高いという傾向がみられました。また、授業以外の学習時間については、回答にばらつきがみられ、学生によって授業の準備や復習に差がでやすい傾向があることがわかりました。なお、残念ながら、アンケートの回収率や、自由記述への回答率は、あまり高くない傾向が続いています。

このほか、いただいたコメントとして「良かった点と悪かった点、どちらも書ける欄が欲しいです。」というものがありました。これについては、Q19に「この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。(自由記述)」という質問を設けています。委員会としては、こちらへ良い点も改善点も両方記入していただくことを意図しておりました。設問の文言も、今後検討していきたく思います。

本委員会では、これらの結果を受けて、アンケート結果が有効に活用できるよう、アンケートの実施形態や実施方法について、慎重に議論を重ねてまいります。個別の授業の結果についても、さらなる活用をご検討いただければと思います。引き続き、皆様の率直で建設的な意見をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

「授業改善のための学生アンケート」2024 年度後期 顕彰授業について

2025 年 4 月 24 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025 年度は全科目区分を 2 分割して実施しています。2024 年度は、人間総合学部専門科目、宗教学科目、共通科目、学部共通科目、司書課程科目、司書教諭課程科目、大学院（児・発）専門科目が対象です。

2024 年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2024 年度後期

少人数部門（履修者 6～19 名）

児童文化学科専門科目 金曜2限 通年

「演習」森下 みさ子 先生（人間総合学部児童文化学科教授）

多人数部門（履修者 20 名以上）

初等教育学科専門科目 火曜4限 後期

「教職実践演習（小）」神永 典郎 先生、中田 正弘 先生（人間総合学部初等教育学科教授）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計／30 点満点）とする。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数 6～19 名）と「多人数」（履修者数 20 名以上）の 2 部門とする。
- ⑥ 白百合女子大学 FD・SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第 1 位を確認、顕彰対象授業を決定する。
その際アンケート回答率によって順位を調整する場合がある。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」2024 年度後期 顕彰授業における工夫

2024 年度後期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 6 項目です。

- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

<少人数部門（履修者 6～19 名）>

「演習」 森下 みさ子先生（人間総合学部児童文化学科教授）

2024 金 2 通年 児童文化学科専門科目

◆「演習」という授業

卒業論文（4 年次）に向けて、個々のテーマを模索しながら、調べ方・考え方・伝え方等の基盤を修得するために 1 年間をかける、3 年次必修の通年科目です。入門科目（1 年次）、基礎演習（2 年次）を経て、自身の関心や適性が見えてきて、さあ、いよいよ「唯一無二のわたしのテーマ」に取り組む！という、まさに学生主体の授業、2024 年度は例年（15, 6 人）より若干少なめの 13 人で取り組みました。

◆前期：共通テーマ「遊園地とテーマパーク」に取り組む

◇ミッション・ポッシブル！

前期はみんなの関心を出し合いながら共通テーマを決め、各自の視点を活かして分担、責任をもって各自のミッションに取り組みます。パワポ・レジュメ・カンペの 3 点セットを準備して、5 月中旬からプレゼンが始まります。先輩の残したパワポを紹介することでモチベーションがあがっていきます。図書館の協力もあり「基礎演習」で調べ方・発表の仕方等を教えられているせいか、基本のキが出来ているので助かります。プレゼンは、バズセッションやクイズを挿入するなど個々に工夫をこらすので、回を重ねるごとに熱量があがり、討議も深まっていきます。

◇冊子『遊園地とテーマパーク』作成

卒論に活かせるように、発表と討議を経て深まった内容を文章化して冊子にまとめるようにしています。視聴覚に頼らずに文章で伝える力を養うためです。文章化するのは大変です

が、それによって思考が深まり表現が磨かれる体験ができ、卒業論文という大作に挑む気力がわいてくると思います。そして何よりも各自の取り組みが一冊にまとまることで充実感と達成感が得られます。

◇夏休み明けに冊子の論考の講評を行い、白百合祭には完成した冊子とともにゼミの成果を展示しました。外部の人の目にも触れ好評をいただいたことがより大きな達成感と意欲に結びついたと思います。

◆後期：卒論に向けての発表

前期のテーマの探究において、個々の関心だけでなくその人に適した研究方法も見えてくるので、それを活かした卒論テーマを決め、プレゼンを行いました。この時も先輩のパワポがモデルとして機能しましたが、学科研に保管されている卒業論文とつなげて参考にすることができるので、卒業論文への助走として大いに役立ったと思います。発表も冊子も卒論も、先輩たちのモデルがあることによって、憧れをもってイメージしやすいのではないのでしょうか。

「楽しく学ぶ」という児童文化学科の学びの基本方針が、学生主体でもっとも活かされるのが「演習」ではないかと思います。私自身にとっても、新しいテーマに向き合って一緒に探索を進める「楽しく学べる」授業です。この賞も共に楽しく学んだゼミメンバー全員でいただいたものと思って感謝しています。



<多人数部門（履修者 20 名以上）>

「教職実践演習（小）」 神永 典郎先生、中田 正弘先生（人間総合学部初等教育学科教授）
2024 火 4 後期 初等教育学科専門科目

○授業の目標と、それを実現する方法を明確に示す

「教職実践演習（小）」は、教職課程の仕上げにあたる科目であり、大学での 4 年間の学びを丁寧に振り返り、自身の課題を捉え、それを理論的に学び直すだけでなく、模擬授業の計画・実施、ロールプレイ、資料作成等の方法を用いて「深く追究し」「プレゼンし」「協議し」、教員としての資質・能力として有機的に統合・形成していくことが目標であることを伝え、全員で共有した（Q7）。

○電子ポートフォリオとリフレクションの手法を用いて、自分自身を見つめる

それぞれの学生の学修成果と課題については、各自が manaba に記録した 4 年間に渡る電子ポートフォリオや CAMPUSSQUARE の履修カルテを用いて振り返るとともに、少人数で協同的にリフレクションする機会を取り入れた。自身のそれまでの経験や実習日誌の

記述等を基に、リフレクションに取り組み、自己の強みや課題等について、言語化していくプロセスを大事にした（Q14,15,16）。

○本授業で各自が取り組む課題を明らかにし、理論と結びつけながら学ぶ環境を整える
学生が課題として取り上げたのは、例えば「通常学級における特別な支援を必要とする児童の指導」「授業における ICT の活用」「いじめ問題や不登校への対応」「学級経営における教師の役割」「話す力を伸ばす指導の工夫」「社会科における導入の方法」などであった。より主体的に学修に取り組めるよう、同じ課題でペアやグループを組むようにした（Q15）。また、その課題について、深く追究していけるように、有益な資料を一緒に探したり、必要に応じて教員側から提供したりした（Q9）。教員は、ペアやグループの活動に適宜加わり、助言を行うこととした。

○実際（現場）に学び、自らチャレンジし、協議し、学びを深める
2 人の教員によるティームティーチングの利点を生かし、各ペア・グループと個別に相談し、それぞれのニーズを把握するとともに、課題解決の方法や取組の内容等を話し合った。その結果を踏まえ、近隣小学校での授業観察、教員へのインタビューなどを行えるように環境を整えた（Q10, 14）。また、ICT 活用や教科の指導方法、特別な支援を必要とする児童の支援等、教育の方法に関する課題についても、例えば専門性の高い元校長や現職教員等からも学べるようにした。Semester 後半では、それぞれの成果を、模擬授業やロールプレイ等にして発表し、それを基に全体で協議を深めた。このような学びの過程を通じて、各自がそれぞれの課題を十分に習得できるように授業を展開した（Q16）。

